

スポーツ施設整備基本方針（案）について



本市は「1地域1体育館」「1地区1運動広場」を原則とするスポーツ施設整備基本方針（令和2年）を策定し、地域バランスを考慮した計画的な施設整備を進めてきました。人口減少社会・超高齢化社会が到来し、第9次総合計画及び第5次豊田市生涯スポーツプランに基づき、様々な世代がスポーツを通じて楽しく健康で生き生きと活躍できる「生涯スポーツ社会」を見据えた持続可能な施設整備の実現を目指すため、スポーツ施設整備基本方針を改定し、今後の施設整備を進めていきます。

1 背景

（1）公共施設の現状

【第8次総合計画期間中】

公共施設等の整備においては、更新時期等に合わせて施設の集約化・複合化等を行い、総量抑制を図る。

出典：第8次総合計画

【第9次総合計画期間中】

多様化する市民ニーズに合わせた行政サービス等を受用できる「拠点性」と「利便性」の高い適切な配置と資産の適正保有（施設の総量抑制及び公共施設に係る経費の縮減）により最適化を図る。

出典：普通建設事業マネジメント会議 公共建築物個別施設計画（改定）の骨子

（2）豊田市の人口推移と財政



・2020年（令和2年）までは概ね横ばいで推移してきた人口が2025年（令和7年）以降減少方向に推移し、高齢化率はさらに上昇していく見込みである。

・人口減少に伴い、恒常的に歳入が減少していく反面、公共施設の老朽化に伴う維持・修繕費、高齢化の進展に伴う社会保障関係費といった歳出の増加により、市の財政状況は厳しい状況となることが想定される。

（3）スポーツ施設の整備状況（施設種別）

施設種別	対応の概要
体育館	松平体育館の完成をもって「1地域1体育館」の整備を完了。
運動広場	「1地区1運動広場」の整備を完了し、充足している。
野球場 ソフトボール場	大会が開催可能な規模である猿投公園や毘森公園をはじめ、その他施設を含めた利用状況、配置バランスを考慮して整備されており、実施環境は充足している。
サッカー場（陸上競技場を含む） ラグビー場	大会が開催可能な規模である猿投公園や柳川瀬公園をはじめ、その他施設を含めた利用状況、配置バランスを考慮して整備されており、実施環境は充足している。
テニスコート	地域バランスを考慮し、学校体育施設も含め、「1地域テニスコート1施設(5面)以上及びテニスコート夜間照明1施設以上」の整備が完了し、充足している。
プール	市営6プール（夏季3、通年3）が整備されており、民間プールも含めると実施環境は充足している。
マレットゴルフ場	猿投公園や柳川瀬公園をはじめ、地域の大会等の開催が可能な規模で、その地域の核となるマレットゴルフ場の整備を完了し、実施環境は充足している。
その他の施設	各種目の実施環境は充足しているため、現行施設で運用する。

(4) スポーツ実施環境の利用率

地区別平均利用率

種別	日/地区	宇母		高橋		上郷		高岡		猿投		松平		藤岡		小津		足助		下山		稲武		池	
		H27	R5																						
体育館	平日	84.1%	86.8%	87.5%	87.7%	73.2%	77.2%	72.8%	76.2%	74.3%	75.4%	-	59.9%	55.9%	51.7%	22.8%	24.3%	37.7%	34.0%	24.4%	22.5%	-	-	20.7%	6.6%
	土日祝	92.6%	95.4%	84.9%	90.2%	88.4%	90.3%	88.5%	92.1%	85.6%	92.5%	-	90.0%	80.9%	82.0%	53.8%	63.2%	65.2%	68.3%	51.1%	73.6%	-	-	51.1%	64.0%
運動広場	平日	36.2%	29.8%	28.1%	24.2%	43.2%	23.7%	25.6%	25.5%	33.2%	22.6%	36.6%	49.7%	46.5%	1.9%	29.2%	12.6%	29.8%	14.4%	19.3%	10.8%	25.6%	5.0%	-	-
	土日祝	89.4%	83.0%	51.6%	55.9%	77.8%	72.5%	50.4%	72.2%	52.7%	52.3%	62.5%	71.1%	78.7%	63.9%	49.4%	21.0%	48.2%	44.3%	32.7%	19.0%	52.5%	13.4%	-	-
野球場	平日	28.7%	18.7%	-	-	2.7%	4.2%	-	-	10.5%	10.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	土日祝	61.6%	82.8%	-	-	56.2%	61.3%	-	-	44.3%	36.8%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サッカー場	平日	15.3%	22.1%	15.2%	15.3%	69.2%	60.7%	5.0%	1.4%	19.8%	9.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	土日祝	84.4%	78.9%	47.7%	49.0%	92.4%	95.0%	79.2%	77.0%	60.0%	67.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラグビー場	平日	50.3%	44.4%	29.0%	33.9%	52.1%	53.7%	32.9%	30.8%	30.0%	33.8%	-	43.3%	11.8%	5.7%	11.7%	11.1%	1.0%	0.8%	11.7%	9.1%	-	-	0.6%	0.2%
	土日祝	79.1%	74.3%	62.5%	63.3%	83.8%	77.4%	71.0%	67.2%	71.2%	64.1%	-	86.5%	56.8%	45.9%	34.9%	18.2%	13.7%	4.0%	25.6%	32.7%	-	-	14.9%	10.2%

地区別プール利用者数

プール	宇母		高橋		高岡		猿投		足助		下山	
	H27	R5	H27	R5	H27	R5	H27	R5	H27	R5	H27	R5
年間利用者数	9,238人	-	45,808人	43,109人	33,317人	38,743人	108,891人	115,777人	3,512人	4,816人	2,409人	1,338人

※平成27年度、令和5年度【T O S S 帳票】

【利用率全般の考察】

- 平成27年度と令和5年度の利用率を比較すると、旧市内は地域で増減はあるものの、一定の利用率を維持しており、この約10年で大きく変化することはなかった。一方で、旧町村地域では、平成27年度時点で既に低い利用率が令和5年度にかけて更に下降傾向に推移している。

【施設種別ごとの考察】

- 体育館については、全日において高い利用率であり、一般利用～大会利用まで幅広く必要とされていることがわかる。なお、旧町村施設においても旧市内と比較すると利用率が低くなるものの土日祝は50.0%を超える高い水準である。
- 野球場やサッカー場等の専用球技場については、土日祝に高い利用率であり、各競技団体の大会運営に必要不可欠であると考察される。
- 運動広場、テニスコートについては、旧市内では高い水準である。ただし、旧市内と旧町村地域では利用率に大きな差が生じている。
- プールについては、利用者数は概ね横ばいである。(平成29年に毘森公園プールの廃止)

(5) 老朽化に伴う工事・修繕実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1件50万円以上の修繕数	82件	48件	65件

- 施設の維持管理では、毎年度一定数の修繕対応を実施している。今後、施設の老朽化が進むことで、修繕等の対応件数が増加していくことが予想される。
- 今後、各施設において施設を維持するため長寿命化工事を実施していく予定である。
 ※令和5～6年度：スカイホール豊田の長寿命化工事を実施。
 令和7～8年度：井上公園水泳場、高岡公園体育館、猿投公園等の長寿命化工事を実施予定。

(6) 現状を踏まえた評価

- 地域バランスを考慮したスポーツ施設整備が完了した。
- 利用率、利用状況から本市の施設数は充足している。
- 人口減少社会、高齢化社会の到来を見据え、資産の適正保有の検討が必要である。
- 今後は、質の確保を目的とした施設の機能向上や老朽化について、計画的な対応が重要である。

2 基本方針

- 施設の計画的な修繕・改修等による老朽化への対応を図り、原則、新たなスポーツ施設を整備しない。
- 人口減少社会・高齢化社会において、市民がスポーツ活動を推進できる環境を適切に提供するため、量的充足（数、規模）から質的充実（機能、利便性）を図る。
- 具体的な必要性が認められる場合に限り、新たな施設整備や既存施設の大規模改修の是非を検討する。

（1）計画的な修繕・改修等による老朽化への対応について

施設の老朽化が進む中、市民の安全・安心や時代に即した機能・利便性の確保、費用対効果の観点から、施設の修繕や改修等の必要性を検討・対応する。具体的には、個別施設計画に基づき、施設の長寿命化工事や予防保全（施設に不具合が生じる前に行う修繕）の対応を行い、事後保全（施設で不具合が生じた後に行う修繕）は速やかに対応する。

（2）量的充足（数、規模）から質的充実（機能、利便性）への対応について

ア. 量的整理を行う施設種別

運動広場やテニスコートは、地域バランスや利用率等の観点から施設数は充足しており、人口減少・高齢化が進むにあたり、利用率の低い施設においては集約や縮小等の検討を行う。

施設種別	施設の目的	施設整備の方向性
運動広場 テニスコート	子どもから高齢者まで生涯を通じて、身近な地域でスポーツが実施できる環境を提供することで、健康の保持・増進やレクリエーションを目的にスポーツに親しむ施設。	設置地域のバランスや利用状況を踏まえながらも、利用率の低い施設については、利用率の向上を図る検討（旧町村地域におけるスポーツ合宿の推進など）を進めつつ、集約や縮小等を検討する。

イ. 質的充実に向けた施設整備案

熱中症リスクや環境負荷の低減、アクセシビリティ等の社会的ニーズの高まりを踏まえ、空調や屋外照明等の整備を行い、安心安全で快適なスポーツ施設の整備を行う。

施設種別	対応の概要
体育館	空調の設置、照明のLED化の整備。
野球場・ソフトボール場	毘森公園の老朽化に伴う再整備。屋外夜間照明のLED化の整備。
運動広場、サッカー場（陸上競技場を含む）ラグビー場、テニスコート	屋外夜間照明のLED化の整備。
プール	照明のLED化の整備。

（3）新たな施設整備や既存施設の大規模改修の検討について

ア. 競技人口やニーズの変化による施設整備

競技人口の増減による明らかな施設数の過不足や地域の状況の変化などニーズの変化を確認できた場合は、新たなニーズへの対応や既存施設の廃止等の必要性を検証する。

イ. スポーツツーリズムの推進を担うべき施設の整備

全国規模の大会やイベント等の戦略的な誘致により、まちに経済効果や賑わいをもたらすため、スポーツツーリズムの推進を担うべき施設に求められる機能を整理し、必要な施設整備等を行う。

対象となる施設	施設の目的	施設整備の方向性
中央公園 （豊田スタジアム）	集客施設として市域内交流だけでなくスポーツツーリズムの推進により市外からの交流を促進することにより、交流人口の増加及び周辺地域の活性化を生み出す施設。	市民利用及びスポーツツーリズムの推進を目的に、中央公園内にスポーツパーク（人工芝グラウンド2面）等の整備を実施予定。
スカイホール豊田		スポーツのプロリーグや大規模イベント等の誘致における施設の優位性を高めるため、興行場として不足している機能の検証等を行う。